

公孫樹

東京都立
豊多摩高等学校
令和6年12月
第65号
東京都杉区
成田西2-6-18
TEL 03(3393)1331



「てっぺんを取れ！」

学校長 板倉 和則

パリオリンピック、女子ビーチバレー決勝戦。同点で迎えた最終セット、対戦する選手同士がネット越しに激しい言い争いとなりました。審判が間に入りましたが、事態は収束しないまま険悪な雰囲気が続きました。その時、聞こえてきたのはジョンレノンのイマジン。DJが機転を利かせて流したようです。愛と平和を謳う曲に選手たちの表情も和らぎ、笑みを漏らして拍手。観客の大合唱と競技終了後お互いを称えあう選手たちの姿が印象に残っています。

試合中、どのような経緯で、選手たちの胸にどのような思いがあったのかはわかりませんが、様々な思いを完全な形で昇華させるのがスポーツだと私は考えています。試合中、時として怒りや憎しみに似た感情を抱くこともあるかもしれませんが、スポーツはルールのある闘い。損得も、忬度も全く必要ない。むしろ遠慮して手を抜く方が相手を侮辱していることになる。相手をリスペクトして全力で臨まなければなりません。同じ戦いでも戦争とは違います。中東では停戦合意がなされたようです。兵士の回復のため？体制を立て直すため？ゲームじゃないんだと言いたい。

今年、オリンピック開催期間中も、戦争が止むことはありませんでした。オリンピックは平和の

祭典ではなかったのでしょうか。オリンピック体験はもはや実現しないのでしょうか。戦争や紛争は、民族や宗教、政治による相違、領土や資源の争いなどによって起こると言われますが、それ元を辿れば、誰もが持つ人間の本能的なものではないかと考えます。怒り、敵意、闘争心、虚栄心、自己中心、思い上がり、虚栄心、様々な欲望…。平和的な手段で解決する必要があると思うのです。スポーツに限らず、今しかできないことに全力で取り組んでいますか。あなたの全力が平和への鍵です。広く経験してみることも否定はしません。ひとつのことに全力で取り組んで高い成果を狙ってみては。それが Tough the Sky に込めた三つ目の願いです。すなわち、てっぺんを取れ！ここで言うてっぺんとは、表彰台の一番高いところという意味ではなく、妥協なき自らの頂点と捉えていたいただきたいと思えます。

Tough the Sky! TOYOTAMA!



「2学期を振り返って」

副校長 土崎 祐一郎

令和六年度第二学期は、台風明けの猛暑の中、始業式から始まりました。グラウンドに避難する想定で計画していた避難訓練は、台風の影響によりグラウンドが避難できるような状態ではなく体育館に避難し、そのまま始業式を行いました。九月は記念祭（文化祭）、体育祭とたいへん忙しい月間であったと思います。

記念祭は、コロナ禍以前の開催規模に戻り、保護者の方や中学生など沢山の方々が来校されました。開催した二日間は、各クラスが展示、緑日、演劇、映画、飲食関係、ゲームなど様々な企画を行い、文化関係の部活動もそれぞれの活動内容が分かるように工夫して実施していました。後夜祭も行われて学友にとって充実した記念祭であったと思います。

体育祭は、当日の午前中は薄曇りで運動に適した天候でしたが、午後は晴れ上がり気温も上昇し、たいへん暑い中で競技を続けました。競技中には休憩スペースとして安全に配慮しながら最後まで実施することができました。

これらの行事は、教職員、学友、PTA役員が暑さ対策を講じたことで、安全な運営ができたと思います。その後、学校説明会、第二学年修学旅行など各行事を滞りなく実施することができました。年が明けると大学入試や推薦選抜・一次学検査、卒業式とあっという間に過ぎていきそうです。

「記念祭を終えて」

生徒保健部 嶋田 拓也

今年度の記念祭は、昨年度同様に二年連続で一般公開という形で開催することができました。昨年度は、四年ぶりの一般公開をし、コロナ流行以前の形で記念祭を再び、という強い思いが込められていました。その思いを継承しながら、昨年度を超えるようなより良い記念祭を、という思いをもって、今年度の記念祭が行われました。

記念祭実行委員会が発足した四月から、総長・副総長・各局キャップを中心に、話し合いを重ね、準備を進めてきました。彼らは、昨年度を超える素晴らしい文化祭にしようと四月から奮闘していました。六月の合唱コンクールを無事に終え、次は記念祭だということで、記念祭実行委員やクラス係の人たちも、楽しみ・不安・緊張など、様々な感情が入り混じりつつ、準備を進めていたと思います。

夏休み中、記念祭準備期間はとくに、みなさんの記念祭への強い想いを感じました。ポスターや看板、出店の装飾のために、各団体、夏休み中にもかかわらず予想以上に大勢のみなさんが登校し、準備をしていました。目標が定まったときのみなさんの勢い・爆発力にはとても感心させられました。これからも目標に向けて努力し続けることができる人でいてほしいと思います。

夏休みが明け本格的に準備が進むと、装飾やポスター・看板などの創意工夫が溢れる仕上がりを見て、記念祭に対する熱や意気込みをより感じました。こうしたみなさんの努力もあり、当日は二日間で七千人をこえる来校者を迎え、今まで以上

に活気ある記念祭となったのではないのでしょうか。無事に開催できた一方で、当日は様々なことがありました。次年度への課題もたくさん見つかりました。担当としては、今年度の反省点や課題点は、来年度の文化祭では改善できると期待しています。

最後になりますが、無事に記念祭当日を迎えることができたのは、皆様のおかげです。来年度以降も、より良い記念祭となりましょう、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「体育祭を終えて」

生徒保健部 上海 ちか

令和六年九月二十日(金)、無事に今年度の体育祭を終えることができました。無事といっても、体育祭当日の予想気温は36℃。学友たちの安全を考えると実施を見送ることも考えられました。そんな、直前まで開催が危ぶまれた今年度の体育祭ではありましたが、その中で一番印象に残ったのは学友たちの「行事に対する熱意」でした。

今年度の体育祭では、「棒引き」と全学年が力を合わせる「団別綱引き」の二種目をプログラムに加え、夏休み中に体育祭実行委員で新種目のルール作成や新たに必要となる用具の準備、その他の道具類の整備などを行いました。「運動ができる人だけでなく、苦手な人にとっても有意義だったと思える行事」になることを目指し、本番に向けて少しずつ準備を進めていきました。

そして迎えた体育祭当日、天気予報は変わることなく猛暑の予想でした。そこで、①「種目の間に“クールタイム”を入れること。」②「種目の数

を一つ減らすこと」という二点を条件とし、猛暑下での体育祭を開始いたしました。担当者として私は、「これで本当に学友が納得し、かつ安全にやり切れるのか」という不安を胸に抱いていました。それは、学友の行事に対する熱意を感じていたからです。実際に、「実施種目を減らさないでほしい」と熱い想いを伝えるに来る学友も多くなりました。しかし当日、そんな過酷な状況下でも、できることに全力でぶつかり、仲間を応援し、互いの良さを認め合っている学友の姿をみて、私は胸が熱くなりました。

私は、豊多摩高校の三大大行事と言われている「合唱コンクール・記念祭・体育祭」を通して、行事のもつ素晴らしいさを学友の皆さんから学ぶことができました。「自主自律」を掲げている豊多摩高校だからこそ、自ら学び、自ら考え、完成度の高い行事を作り上げることができのだと思います。来年度の体育祭をよりよいものにしていくため、実行委員会で反省会を行い「豊多摩らしさ」をさらに深めていくことを期待しています。

結びに、学友主体とはいえ、本校の教職員をはじめ保護者の方々等、豊多摩高校に関わる全ての方々の力がなくては体育祭を行うことができなかつたと思います。この場をお借りして御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。そして、委員長を中心に運営してくれた係生徒・実行委員の諸君、猛暑の中でもひたむきに一生懸命な姿を見せてくれた全学友諸君へ。皆さんの協力がなければ行事は成り立ちません。どんな形であれ、一生懸命活躍している姿は多くの人に感動と勇気を与えます。互いの良さを認め合い、これからのよりよい学校生活を作り上げていってください。